

瓜子姫



表紙 割烹 銀波

vol. **108** July 2025

contents 目次

- 05 YOKOGAO 拝見
- 05 野菜歳時記
- 06 ランチ情報
- 10 中心街で Art を楽しもう
- 14 八戸三社大祭ガイド 2025
- 16 ビューティー & ショッピング情報
- 17 プレゼント & クーポン
- 18 タウンウォッチ
- 20 食育エッセイ
- 21 夏のグルメ情報
- 26 はちのへ TAKEOUT Gourmet

ホームページ・インスタ公開中！

パソコン
<http://www.webwell.jp>
ケイタイ
<http://www.webwell.jp/mobile/>
インスタグラム
@hachinohe.well



昔むかし、ばばが、川でじゃぶじゃぶど、洗濯していると川上から大ぎだ瓜こあ流れで来た。ばばはその瓜ば拾って、じじと割ったきや、中から「ほほげえ、ほほげえ」って、おぼこわらしつこあ出で来た。じじとばばは「瓜子」って名前ばつけたで、大事に育てた。年頃になった瓜子は、たまげだきれい娘になった。したすけ、村の人達は「瓜子姫」って呼んでいった。瓜子姫は気立ても良く、働ぎもので、朝から晩まで「ギッコーバツタントン」って、機を織っていた。この瓜子姫の噂を聞いた長者様が「おらえの息子の嫁にけでけろ」って、嫁もらいの話が来ていった。じじとばばは、瓜子を嫁にけることにした。して、明日嫁もらい来るという日、じじとばばは瓜子が織ってくれた反物ば持って、町使いに行ぐことにした。

「瓜子や、明日お前が着ていく着物ば買ってくるすけ、誰あ来てえってえ、この戸を開げではなんねえよ」と、云った。瓜子は「誰あ来て、戸こば開げねすけ」と云ったので、じじとばばは安心して町き買物にいった。ところが、じじとばばが家を出るころば、天の邪鬼が近くの木の上から見ていった。天の邪鬼は、瓜子姫の家き行つて「ドンドン」と戸ばたたいた。瓜子や、我、じじだも、忘れ物したすけに、戸こば開げでけろ」った。いや、じじの声どは違うすけに、開けね」って、瓜子姫は機を織つてらさ。天の邪鬼は、どやしたら瓜子姫が戸を開けるべと考えた。して「瓜子姫、お前のきれいだこどは遠くまで聞こえでらよ。おらもお前ば見たくて、遠くから来たのだ。したすけ、わんつかでもええがら、開げでけろ」った。それでも瓜子は「ばばが、わんつかでも戸を開ければわがねったすけに」って機を織った。それでも天の邪鬼は、「瓜子姫、したら、爪こ入るぐらいならいがべ。へば、我、隙見こして、きれいだ瓜子姫ば見れば帰るすけに」った。こう言われだ瓜子は、だんだん相手ば可哀想になつて来て「爪こが入るくれならえがべ」って、ほんのわずか、戸こば開けた。

したきや、天の邪鬼は、長い爪ば戸こさ引っかけで、ガラガラと戸を開げで家の中き入った。して、瓜子姫さかがつて殺してしまつた。そこさ、じじとばばが帰つて来た。じじとばばは、戸が開いたままだし、機を織る音こも聞こえねえので「こりやあ、大変なこどが起きた」って、思つて、こそつと家の中ば覗いた。したきや、天の邪鬼が瓜子に化けで、囲炉裏に座つて、瓜子の指こば竹串に刺して食つていった。じじとばばは、瓜子が殺されてしまつたので、くやしうてたまらねがつた。したども、我慢して「瓜子よ、今帰つたよ。天の邪鬼はこながつたが」って、家き入った。ううん、天の邪鬼はこながつたよ」って、天の邪鬼の瓜子は、手で口ばぬぐつた。「そうが、へば良がつた。ほら、きれいだ着物こば買つて来たよ。明日は大仕事な嫁入りの日だから、早く寝ろ」って、じじとばばは天の邪鬼の瓜子ば、早く寝かせた。次の日、長者様が嫁入りの迎えの籠が来た。天の邪鬼の瓜子はきれいにもよつて、籠き乗つた。カラスが「瓜子ば殺して食つてしまつた天の邪鬼嫁こになった。すくとんとんとん」って鳴いた。したども、じじとばばは、知らねえふりして、婿の家き行つた。さて、婿の家き着いだ、じじとばば



挿絵/久慈彩華

は、大きき釜さ、湯ばいっぺえ沸がしでもらつた。それから、じじとばばは、天の邪鬼の瓜子に、「瓜子、祝言の前には、誰でも体こば、きれいにしておがねばねすけに、風呂こき入れ」って、風呂き入れた。風呂き入つた天の邪鬼の瓜子に「外の人に見られでもなねすけに、蓋こするよ」って、大きき蓋ばした。次にじじとばばは、大きき石ば蓋の上き乗せだ。そやして、どんどんど、火こば燃やした。釜の中が「じじとばば、あつてたいへんだ。火こば止めでけろ」って、天の邪鬼の瓜子が言つた。でも「この、くされ天の邪鬼、良ぐも、おらどの大事な瓜子ば殺したな」って、どんどんどん火こば燃やして、とうとう天の邪鬼ば、釜ゆでにしてしまつた。どつとはれ